

コロナ禍において工夫したこと、コロナ禍で特に問題になったことなど
(令和3年度第I期実務実習)

【東北地区】

【青森県：薬局】

- ・在宅や災害時の活動や学校薬剤師など一部実施できないことがあった。

【秋田県：薬局】

- ・カウンターにアクリル板設置することが出来たため、投薬出来た。
- ・卸と相談して個別に見学することができた。
- ・学校薬剤師として現場で実習できた事例と、出来なかった事例があり。現場で出来なかった施設は、薬局で検査キットを使用し測定を行った。
- ・患者さんと接するのに、予防接種出来ないのはかわいそうだと思う。

【福島県：薬局】

- ・学生がワクチンを接種していないので在宅などのリスクが高い事例に対しては対応を控えさせてもらった。
- ・コロナ禍ではありましたが無事に終了できて安心しました。
- ・コロナの影響で薬局外の業務を十分に見せられず申し訳なかったです。
- ・感染症の影響で座学が増えた。

【東北大学】

- ・実習直前のオリエンテーションにおいて、学生に対して感染拡大防止に十分に配慮して実習に参加することを伝えた。
- ・実習生は、対象管理を徹底し、少なくとも実習開始2週間前から毎日体温を測定し、体調を記録する。
- ・体調不良を感じる時は、実習参加前に指導薬剤師に連絡をとり、原則として施設での実習は休止する。特に発熱や風邪の症状が続く時は、必ず医療機関を受診する。
- ・新型コロナウイルス感染者と濃厚接触の疑い、あるいは風邪の症候で高熱が続く時あるいは強い倦怠感や息苦しさがある場合は、自治体の相談窓口連絡して、受診する医療機関の指示を受ける。
- ・判断に困った時は、指導薬剤師あるいは指導教員に相談する。
- ・施設を担当する教員に対して、施設訪問の代わりにオンラインツールも活用すること、従来からのメールや電話による施設との情報交換により行うことを推奨した。

【A大学】

- ・新型コロナワクチン接種に関する問い合わせ（学生は大学で接種してくれるのかなど）が多く寄せられた。

【関東地区】

- ・薬局において、新型コロナワクチンを接種していないことを事由に受け入れを断れ、関東地区調整機構にキャンセルの申し込みを行った。また、病院の薬剤部長より、受入れ実習生の健康状態等の個人

情報について契約締結前に知らせるべきだとの苦情や新型コロナワクチン接種に関して、病院においては対象に含まないが薬局や大学で何とかするよう求められ、ワクチン接種が出来ないのであれば受入れを断る可能性があるなど伝えられ、対応を苦慮する事例があった。ワクチン接種に関しては、本人の同意に基づいて行われるものであり、接種しないことによる受入れ拒否の事例が発生している。本人の健康上の問題により、ある業務を実習できないことがあることについては理解できるが、受入れ自体を拒否されることはあってはならないと考える。

- ・新型コロナワクチン接種についての大学方針、副反応により欠席した場合の取扱いについての問い合わせが 20 件ほどありました。
- ・薬局・病院実習施設より、新型コロナワクチンの接種が可能だが、実習生に意向確認をして欲しいとの連絡が 20 件ほどありました。

【北陸地区】

A 大学

薬局からの意見

- ・学校薬剤師の実施を通常他の薬局に依頼しているが、コロナ禍であり依頼を頼みづらい。
- ・コロナ禍で学校薬剤師の実施日程が変則的（急遽変更になる）であるため、実施が困難であった。
- ・コロナワクチン接種による発熱の場合、公休になるのか体調不良による欠席時と同じ対応になるのか気になった。
- ・実習生や薬局スタッフが新型コロナウイルスに感染した場合を想定して、対応等をシミュレーションしておく必要があるのではないか。

B 大学

- ・急遽、遠隔実習への変更が必要になった場合に備えて、実習開始前に全学生の自宅のインターネット環境を調査した
- ・実習期間中の昼食時間帯の感染対策として、黙食の指示はもちろんであるが、よりリスクを軽減させるため、学生同士の昼食時間帯を最小人数でグループ化すること、パーティションの活用を行った

A 県薬剤師会

- ・食事休憩が複数人で重ならないよう、時間をずらす。
- ・手洗い、うがい、アルコールなどの凡事徹底
- ・個人在宅や施設在宅では、中まで入らない等の対応
- ・薬局従事者と同じように検温・消毒は時間を決めて実施してもらいました。実習中の昼食はお弁当持参とし、実習中の外出は避けてもらいました
- ・この課題とは違いますがⅡ期の病院からコロナワクチンを受けるように連絡があり実習期間中に病院にワクチンを受けに行きました。二回目のワクチン接種は実習と実習の間の期間に受ける予定になっています。

病院実習を受ける前にふるさと実習のためか PCR 検査を受けるように大学から指示がありました。

- ・流行前だったので、小学校に 2 回検査に行ってきたが、学校側のクレームなし。

- ・今まで以上に、在宅に連れていきにくくなりました。フェイスシールドを着用し、個人在宅の方をお願いをして連れていくことができました。
- ・外部訪問の機会が持てなかった。健康関連イベントが開催されず参加機会がなかった。(地域医療関連)
- ・薬局内では密にならないように工夫した。
- ・患者対応は基本的にアクリル板を通して行った。
- ・集合実習や訪問実習は極力控えたが、感染対策を十分にして、在宅や学校薬剤師の見学は出来た。
- ・オンラインでのグループディスカッションができた。
- ・内科病院門前で、0410 対応の方がほぼ毎日対応していたため、万が一コロナに掛かっている方が来られないかどうかは凄く不安でした。お蔭様で、今回は問題なかったので安心しております。普段ですと、同じX薬局の他店舗へ見学を多く取り入れていたのですが、今期は数カ所しか行く事が出来なかったもので、申し訳なく思います。
- ・地域活動(薬の相談会など)、他職種とのカンファレンスの経験を実務で行えなかった。学校薬剤師の実務も薬剤師会の移転と重なり出来なかった。
- ・薬局外実習が中止となったため、経験させられないことが残念であった。
- ・問題やトラブルにはなっていないが、学校薬剤師活動での同行も、学校側が上記と同様に不安を感じていた。
- ・実習生のワクチン接種日程の連絡について、当日の実習可否判断を実習生や受け入れ先にゆだねられ少し悩みました。
- ・学校薬剤師・急患センターの体験ができず指導薬剤師の写真と説明だけになってしまい申し訳なかったです
- ・毎日の体温測定、体調変化、毎日のマスクの交換、こまめな手指消毒、服薬時のフェイスガードの着用の実施
- ・GW 時の移動について(他県への移動) 可能なか不可なのかはっきりとした説明があったほうが良いと思います。学生だけでなく薬局にも案内が欲しい

【東海地区】

- ・実習前に「PCR 検査」を求める施設はこれまでも一部あったが、最近ではワクチン接種を実習の条件にあげる施設も一部出てきた。現時点では任意の接種であり、「ワクチン接種を強要せず、接種の有無により実習の差別化が起こらないように」という厚労省・文科省からの通知に矛盾する対応になっていないか気になる。
- ・岐阜薬科大学附属薬局から、自宅学習用の課題に関して薬局に対する情報提供を行った。
- ・コロナにより中断、在宅実習に切り替わることなく、事前の申し合わせ通り行えたので特に無し
- ・週末も含めて日誌に体温、体調、行動歴等の記載を求めている
- ・濃厚接触者などの学生対応について、大学の保健センターと連携した。

【近畿地区】

- ・例年薬局実習の期間中に、本学実習室において薬剤師会主催で集合研修が開催されてきましたが、令和2年度に引き続き本年度も全て中止となっているため、学校薬剤師の業務やOTC販売などの実習についての対応が、実習先によっては不足した場合があります。
なお、緊急事態宣言が再発令されている中での薬局実習でしたが、感染予防策を取りながらほぼ通常形で服薬指導の実習を行っていただいたり、在宅医療の実習も行っていただけた学生が多かったように思われます。
- ・実習施設では、コロナ禍の状況で学薬体験・集合研修・卸見学ができない分、薬局内で講習研修会をどんどん行ってくださった。
- ・コロナ禍で薬剤師会主催の研修会は縮小しているが、少人数やWeb研修など工夫することで、可能な限り開催された。
- ・実習生は、前日夜に発熱していたが朝になって解熱していたため実習へ行き、そこで前日夜の体調について話をしたため、体調不良の際に自己判断で実習に来るとはコロナ禍での健康管理や体調報告について、大学ではどのような指導をしているのかと指摘があった。
- ・学生・教員ともに事前訪問が困難な状況であったが、いくつかの施設でオンラインツール（Zoom、Teamsなど）を用いた顔合わせを設定して頂いた。また、実習終了時のグループ内の成果発表会や薬局・病院・大学の情報共有会についても、オンラインツールを用いて積極的に実施した。
- ・PCR検査で陰性であることを実習受け入れの条件とされる実習施設があるが、自施設で実施できないため大学がPCR検査施設を手配する必要があった。
薬局の指導薬剤師から、「実習生に対する新型コロナウイルス感染症ワクチンの接種につて、近畿地区調整機構や大学が主体となって環境整備をするべきではないか。」との意見があった。接種を希望する実習生が接種可能な環境が理想であるが、ワクチンの流通状況や社会情勢等、様々な課題があることを説明した。併せて、近畿地区調整機構にご意見として報告する旨、説明した。
- ・指導薬剤師がCOVID-19のPCR陽性となった事例。他の指導薬剤師（管理者）から学生への指示、大学への連絡など即座に対応いただいた。学生にも保健所からの指示を待たずに民間検査を実施下さり、学生も不安に思う時間や自宅での遠隔実習の期間が短くなった。
- ・学部内で新型コロナウイルス感染者が出た際に、濃厚接触者の認定状況、実習生は感染学生および濃厚接触者とは無関係であること、感染学生の所属研究室に実習生は所属していないことなどの情報を、速やかに実習先施設と共有した。同時に近畿地区調整機構および京都府薬剤師会にも報告し、関係各所への速やかな情報提供に努めた。

【中国・四国地区】

実務実習施設を直接訪問するのではなく、コロナ感染症の拡大状況に合わせて、適宜、WEB会議システムを用いて、面談・連絡等を行った。

【九州・山口地区】

- ・大学教員が実習施設の状況や感染予防対策について電話により確認するとともに、実習生の体調不良や不安の有無について確認しながら無事に実習を終了することができた。
- ・薬局実務実習報告会をオンラインで実施した。
- ・実習開始 2 週間前からの実習地域からの県外移動は禁止
- ・実務実習期間前後の行動制限に関する誓約書の郵送
- ・実習開始 2 週間前からの健康チェック（グーグルフォームでの本学への報告とは別に実施）と行動歴については本学で表を用意し、実習初日にその表を用いて指導薬剤師に報告
- ・アルバイトおよび同居家族以外との会食の原則、禁止
- ・本人（場合によっては家族）の体調不良や発熱時の際は自宅待機（欠席）
- ・1 期実習生には、実習開始 2 週間前からの感染予防対策の実施を指示した。また、アルバイトの制限など、感染拡大防止に必要な行動制限を適宜指示した。
- ・実習施設からの新型コロナウイルス PCR 検査を求めに応じ、一部実習生の PCR 検査を実施した。
- ・新型コロナウイルスワクチン接種に関して、一部の 1 期実習生は、実習先の薬局における優先接種対象者に入れていただき、4 月の末から 5 月にかけてワクチンを接種した。
- ・実習生の家族が濃厚接触者の疑いがあり、実習生を自宅待機とした。濃厚接触者でないことが判明したため、実習を再開した。
- ・指導薬剤師の家族が風邪症状のため PCR 検査を受けることを実習生担当教員に連絡があった。PCR 陰性の結果が出るまで実習生は 1 日待機した。
- ・学校薬剤師に関する内容など、薬局外での実習は Zoom を用いて臨機応変に実施した。
- ・セルフメディケーションや学校薬剤師については、実際の資料や器具を見せてもらい、熊本県薬剤師会が作成された DVD や参考資料を拝見させて頂きました。

【福岡県】

- ・感染防止対策に努め、できる限り通常と変わらない実習内容となるよう配慮し、実践した。
- ・コロナ禍のために施設への在宅訪問が制限されて本来の形ではなかった。その分個人宅については感染に気をつけながら従来に近い状態で訪問はできた。
- ・薬局外での実習ができない場合があった
- ・担当者会議や地域ケア会議へ連れっていくことができなかった。
- ・感染防止の徹底
- ・在宅などへの参加
- ・薬剤訪問等外部での実習の制限があった。
- ・コロナ感染しないように注意して実習をしましたが、その分実践することが今までより少し少なくなってしまったと思います。
- ・緊急事態宣言により、施設等への訪問薬剤管理指導が難しい。
- ・マスクの配布。こまめなアルコール消毒の徹底。
- ・マスクは抗ウイルスのパーセントが高い物を実習生、職員、全員装着。昼食テーブルは元々パーテーションを置いてましたが、密を避けるため、実習生 12 時より昼食、職員は 12 時半以降に昼食をとって対応。実習生、職員ともども不要不急の外出はしないよう指示。
- ・職員及び職員の家族でコロナ感染者、濃厚接触者が出た場合の対応について困った。

- ・学校薬剤師や在宅の見学で、学生のいない教室で検査の練習をし、個人宅は時間を短めにしました。
- ・服薬指導業務の取っ掛かりとして比較的単調となる処方内容が過去の実習生においては対応させやすいと考えていたが、このコロナ禍に於いては積極的な関与を経験させることが難しかった。

(工夫)

- ・実習初日に薬局におけるコロナ対策をしっかりと説明し、理解してもらった。
- ・こまめな消毒・換気、オゾンによる除菌、毎日の体温チェックを行った。
- ・コロナ禍においての在宅訪問は、距離を取りながら見学していただいた。
- ・患者さんとの飛沫接触について注意していた。マスクをして、ビニールカーテン越しの患者対応
- ・消毒・検温などの感染防止対策の徹底

(問題点)

- ・感冒で受診された患者さんへの服薬指導を控えたため、実践できていない。

【佐賀県】

- ・ワクチン事業が本格化し、各市町の医師会に対し支部長が調整依頼をすることで、今年度実習を受ける学生の接種枠を設けて頂き、現在進行形で接種を行っている。現時点では希望する学生全員接種ができている状況です。特に受け入れ病院で PCR 検査を義務化するところもあったので、それを受けた医師会の理解も後押しして接種が進められた。

【長崎県】

- ・手洗いの指導はした。学生は毎日体温を付けていた。問題になったことはない。
- ・大学でクラスターが発生し、全く関係なかったのですが、しばらくは服薬指導を中止しました。
- ・局外の活動にも参加して欲しかったのですが、許可をもらえませんでした。
- ・ケースによって、個人用防護具を使用した感染対策 (PPE 対応) を実施した。
- ・独自に行っているオンラインでの薬剤師向け勉強会へ参加。
- ・3月あたりから季節性アレルギーと思しき症状 (鼻水・鼻風邪) で受診されていた患者さんが、症状が継続するので念のため PCR 検査対象となった事例があった (結果は陰性)。昨年度の実習からは、感冒症状があると考えられる患者さんの投薬は、実習生には行わせないようにはしていたが、花粉症等と思しき患者さんについての投薬も、これ以降見合わせることにした。
- ・接遇の延長線上にあると思うが、コロナ対策でマスクとビニールカーテンがあり、普段より大きな声で、ゆっくり患者さんと話すようにしており、学生さんもそれをまねてくれた。患者さんからの話は、聞き取りづらいようだった。
- ・検温、マスクの着用。

【大分県】

- ・実習初日に学生に「密を避けること」「こまめに手指を消毒すること」を伝えました。薬局内もこまめに換気、消毒をしました。昼休みに使う休憩室は、「密にならないように2人まで」を徹底しました。学生自身も新型コロナウイルスについて知識を身に着けて、感染防止に取り組むことが大事だと思います。
- ・学校薬剤師など薬局外の実習がほぼできず、レポートによる評価項目がないことが困った。
- ・学薬、薬局製剤、OTC、施設見学等、他機関にお願いしていた体験をさせてあげられなかったこと。

【宮崎県】

- ・他職種連携を見せる機会が少なくなった事。
- ・マスク着用、検温、出歩かない、休憩時間をずらすなど。
- ・特にはありません。現状の対策を学生さんにも従ってもらいました。
- ・毎週末の行動を逐一報告してもらい、体調管理を双方で確認した。
- ・このコロナ禍もあり、学生の体調不良時の対応に困った。学生としては少くは体調が悪い程度では実習を休むわけにはいかないという責任感で数日間、体調不良でも出席していた様だが、薬局側としてはこのコロナ禍で最悪のことを考えるので、少しでも体調不良がある際は相談する等して欲しかった。その後体調を聞いた際に学生から大丈夫ですとの返答で、頑張りたい学生を前に薬局側としても欠席してもらわなければならないか、どの程度の体調不良で欠席の判断をしたら良いのか悩んだ。
- ・通常の感染対策で特に問題はなかった。
- ・基本的には、風邪の方には投薬はしませんでした。特に問題になったことはありませんでした。
- ・当薬局職員がコロナのPCR検査対象になり1週間ほど実務実習中止になりました。陰性だったのでその後再開できましたがその1週間分の時間をそれ以降の実習で補わなければならないと少し苦労しました。
- ・基本的な対策のマスク着用、手指の頻回消毒、密を避ける等を徹底しました。当薬局周辺では実習期間中感染クラスターは発生せず最後まで無事終わることができましたが、健康管理には気を遣いました。
- ・学生がコロナ禍において、2週間、検温などの記録をしていて、門前病院側に説明をするのに助かりました。
- ・自家用車で通勤して頂いたことが良かった。
- ・実習前2週間の生活など記載があり、信用できた。
- ・実習生の家族が会社内にコロナ感染者がいたが、予め実習生から問い合わせがあったので、何事もなく対応できた。慎重な言動がとれていたことも有難かった。

【鹿児島県】

- ・指導薬剤師側からはコロナ禍なので例年通りの局外実習が行えないことに不満が出ていたが、それでも学生からは局外実習（地域ケア会議や担当者会議への見学、学校薬剤師業務の見学）については満足しているとの意見が多かった。

【沖縄県】

- ・昨年もそうだったがコロナ禍で長期処方が増え、11週の実習期間内に同じ患者さんに複数回の服薬指導をすることが以前より難しくなっている。薬局スタッフに患者さん役をお願いし、実際の処方箋を使ってその患者さんの治療や処方の経過を診るロールプレイや、処方変更に伴う考察や解析を行った。
- ・今回は外部実習も無事にでき、学生に色々な経験をしてもらうことができた。
- ・今朝地方紙を読ませ地域の感染者数を把握させた。薬局での感染防止対策を一緒に話し合った。できれば医療従事者としてワクチンを打たせてあげたかった。
- ・朝出勤時に体温、酸素飽和度を測定記載することで、体調管理に注意した。

- ・換気の意識づけのために、CO2 モニターで換気状況の確認を行うとともに、最終報告のスライドにもその内容を入れて報告した。
- ・実習中（ゴールデンウィーク）に2～3時間、友人と海水浴に行って小麦色に日焼けしていた。通常の実習ならば問題ないが、コロナ禍において実習先に与える印象としてはあまりよろしくないことだと思う。大学の先生方もご尽力いただいているが、今後も実習は続くので今一度ご指導お願いしたい。
- ・実習の集大成として学生さんにはパワーポイントを使用して何でもよいので実習で習ったことの発表をしてもらった。例年他の関連薬局の学生等との合同の発表会になっていたが今回は自己薬局でコンパクトに終了した。歓送迎会のようなことはできなかったが、発表の終了後、薬局の先輩薬剤師たちからのエールの言葉を送った。休日なども実習中、学生も人込みなどを避けて行動してくれた。風邪もひくことなく無事実習が終了できた。
- ・施設などへの入室が制限されているなか、内容への制限は多少あったと思われるが、経験者などの話をリモートで聞かせるなど、対応はできたと思う。
- ・コロナ禍なので仕方ないことではあるが、実習時間内・時間外を問わず学生の行動にいろいろ制約がつくのは大変だと思う

【山口県】

- ・施設訪問・在宅訪問の際は、サージカルマスクを着用。訪問前に手指消毒をしっかり行った。しかし、施設訪問においては、利用者に対面しての実習や長時間の滞在はできなくなった。
- ・問題は特になかったのですが、各患者さんのところに行くごとに消毒をするなどの対策はしました。